

福島大学 教職大学院案内

大学院人間発達文化研究科教職実践専攻



ふくしまの教育を支える ミドル・リーダーを育てる

福島のエデュケーション課題を認識し、新たなエデュケーションの探究により
未来を創造する教員を養成する大学院

- ミドル・リーダー養成コース
- 教育実践高度化コース
- 特別支援教育高度化コース



授業力



新たな自覚



省察力



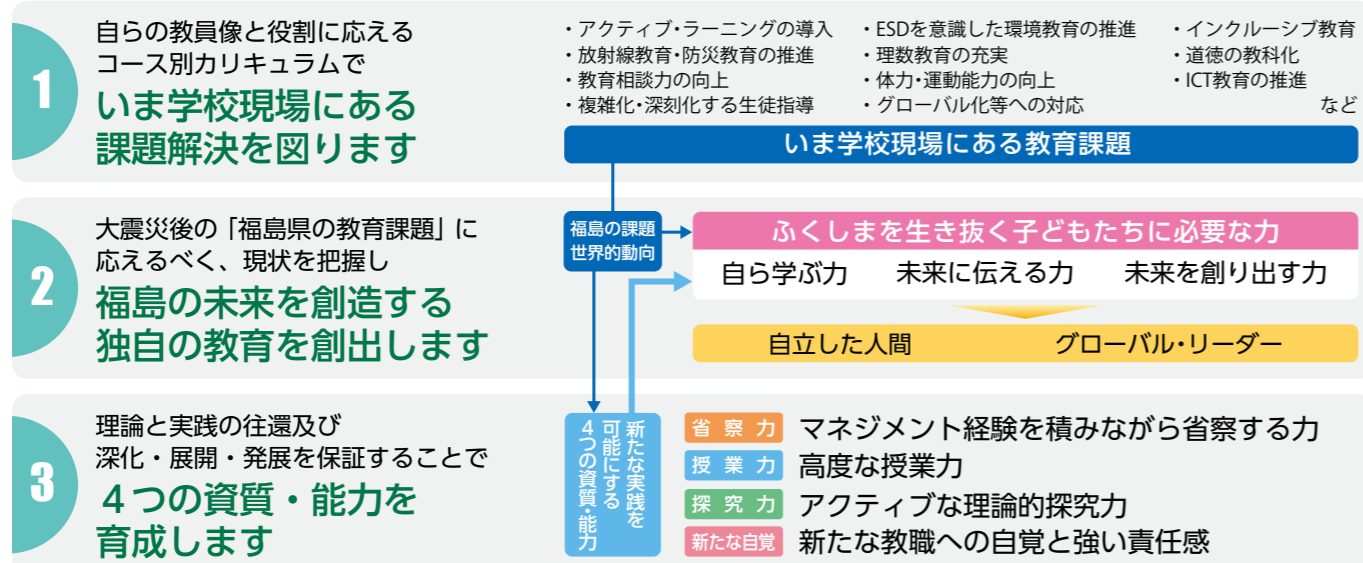
探究力

教職大学院とは？

学校現場の教育課題を研究し、その成果を地域や現場に還元していくことで、教員としての資質・能力向上を目指す大学院です。

福島大学教職大学院は、福島県教育委員会と教育課題を共有し、ふくしまの未来を創造する力を高めます。

福島大学教職大学院の特徴



理論と実践の往還

チーム学校を牽引する	★ 「ミドル・リーダー」	学年・学校課題に対応する力
高度な教育実践力の修得	次 「ミドル・リーダー」	学校課題への意識を高める
学校での教育実践力の修得	次世代 「ミドル・リーダー」	学校課題への意識を高める



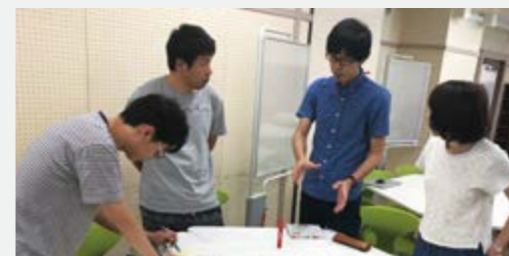
学校現場における課題と必要な理論をていねいにつなぎ、PDCAサイクルをベースとして、課題の発展的な解決を目指します。また、ミドル・リーダーとして、これからの福島における教育を支える「真に学び続ける教員」としての資質・能力を育みます。

各コースの特徴

教職経験や自らの教員像と役割に合わせて、「ミドル・リーダー養成コース」、「教育実践高度化コース」、「特別支援教育高度化コース」を選択します。

ミドル・リーダー養成コース

学年・学校経営課題への対応力を磨く



★ **ミドル・リーダーを目指す方**

教職経験10年程度以上の方

自らの教育実践力(授業力、生徒指導力など)をもとに、学期、年間等の見通しを持ち、学年レベル、学校レベルの課題に対応する力や、学校マネジメント力を身につけたい方

教育実践高度化コース

基盤となる教育実践力を磨く



次 **次のミドル・リーダーを目指す方**

教職経験3年以上の方

1～2校で教職経験があり、様々な実践課題が見え始めた方で、さらに高度な実践力または学校マネジメント力を身につけたい方
※教職経験10年程度以上の方も選択できます。

次世代 **次世代のミドル・リーダーを目指す方**

大学院進学を希望する学生の方

教員免許状(一種)取得見込みで、多様な現職教員と交流することを通じて、教育実践の課題を総体として理解し、学校教員としての自覚を持ちたい方

特別支援教育高度化コース

多様化に応える教育実践力を磨く



★ **ミドル・リーダーを目指す方**

教職経験10年程度以上の方

自らの教育実践力(授業力、生徒指導力など)をもとに、学期、年間等の見通しを持ち、学部レベル、学校レベルの課題に対応する力や、学校マネジメント力を身につけたい方

次 **次のミドル・リーダーを目指す方**

教職経験3年以上の方

障害の重度化・重複化に対応できる専門性の高い特別支援学校教員を目指し、学校マネジメント力または高度な実践力を身につけたい方
※教職経験10年程度以上の方も選択できます。

次世代 **次世代のミドル・リーダーを目指す方**

大学院進学を希望する学生の方

教員免許状(一種)取得見込みで、障害の重度化・重複化に対応できる専門性の高い特別支援学校教員を目指す方

教育課程

カリキュラムは、「共通5領域」、「選択領域」、「学校における実習」、「プロジェクト研究」に分かれています。また、理論と実践の往還を進める場であるラウンドテーブルに年2回参加・実践報告します。

科目領域		コース		
		ミドル・リーダー養成コース	教育実践高度化コース	特別支援教育高度化コース
理論	共通5領域 必修20単位	現代的な教育課題への基礎対応力を形成		
	選択領域 選択8単位	学校改革領域 学校マネジメント科目 学校改革科目	授業改善領域 教科横断型授業改善科目 各科授業改善科目	特別支援に関する理論と実践領域 特別支援に関する理論と実践科目
理論と実践の往還		ラウンドテーブル		
実践	プロジェクト研究 必修8単位	学校課題対応プロジェクト研究 授業実践高度化プロジェクト研究 特別支援教育実践プロジェクト研究 実践の省察 → 課題の明確化 → 解決法探索 → 計画実践 → 分析評価 → 報告書作成 自らの課題を明確にして必要な理論・方法を学び方策を計画・実践して結果を分析・評価		
	学校における実習 必修10単位	学校課題対応実習 (中堅現職学生) 教職専門実習Ⅱ (中堅現職学生) 学校支援実習Ⅱ (中堅現職学生)	長期インターンシップⅠ・Ⅱ (学部新卒学生) 教職専門実習Ⅰ (若手現職学生) 学校支援実習Ⅰ (若手現職学生) 教育実践高度化実習 (若手現職学生)	

教職大学院での学びのイメージ

	1 年 生					2 年 生								
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
共通5領域	教育課程編成実践研究 授業づくりの理論と実際 生徒指導の事例研究 学校ガバナンスの事例研究 福島の学校と教育課題Ⅰ					教材開発と教育方法の実践と課題 学校カウンセリングの事例研究 学校・学級づくりの実践研究 公教育の理念と教育改革					学校と地域 福島の学校と教育課題Ⅱ			
選択領域	主体的な学びで育成するための理論と実践					国語授業の理論と実践 生活科・総合的な学習の時間に関する理論と実践					主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅱ			
プロジェクト研究	教育実践高度化プロジェクトⅠ (ラウンドテーブル)					教育実践高度化プロジェクトⅡ (ラウンドテーブル)					教育実践高度化プロジェクトⅢ (ラウンドテーブル)		教育実践高度化プロジェクトⅣ (ラウンドテーブル)	
学校における実習	分散型モデル											分散型モデル (学部新卒学生を除く)		

ミドルリーダー養成コースの実習

- 教職専門実習Ⅱ**
学校参観・教育委員会の訪問や学校でのジョブ・シャドーイングをおこないます。
- 学校支援実習Ⅱ**
授業・学校行事等に参画しチーム学校のあり方を検討します。学部新卒学生のメンターも務めます。
- 学校課題対応実習**
公開研究や校内研修の企画・運営に参加します。

時間割モデル

	月	火	水	木	金
1	理論	実践	実践	理論	実践
2	理論	実践	実践	理論	実践
3	理論	実践	実践	理論	実践
4	理論	実践	カンファレンス	理論	実践
5	理論	実践	実践	理論	実践

● 理論 ● 実践 ● カンファレンス

教育実践高度化コース(若手現職学生)の実習

- 教職専門実習Ⅰ**
先進的な研究校を参観します。
- 学校支援実習Ⅰ**
連携協力校の授業や学校行事等を支援します。
- 教育実践高度化実習**
連携協力校でチームティーチングによる授業研究・提案授業等を実施します。

教育実践高度化コース(学部新卒学生)の実習

- 長期インターンシップⅠ・Ⅱ**
教員の仕事を総体として理解するとともに、実践から課題を見いだします。

カンファレンス(週間・月間)への参加

現場での実習や支援を振り返って大学教員からアドバイスを受けたり、学生や教員で事例検討をしたりします。



ラウンドテーブルへの参加・報告

5~6名の小グループで報告し討論することで、教育現場での実習や支援を省察し、次の活動へと活かします。県内外からの参加者を募り、大規模に開催します。



教員紹介

准教授 阿内 春生
研究テーマ 市町村議会を中心とした教育政策決定過程の研究

教職大学院では学校経営関連の授業も担当します！なじみのない分野と思わず一緒に頑張りましょう。

特任教授 糎田 惣男
研究テーマ 社会科教育の課題と魅力ある授業づくりについての研究

小・中学校での社会科教育の課題から、子どもにとって魅力ある社会科の授業を一緒に考えていきましょう。

特任教授 北川 裕子
研究テーマ 保健体育科における理論と実践研究

高校教員経験を基に、理論と実践の統合を図り、問題解決や授業改善をする力をつけるように考えています。

特任教授 芝田 直久
研究テーマ 社説・コラム等の授業での活用、スピーチや実用英語の研究

英語を話すためには、文法等の英語そのものの知識だけでなく、様々な分野に興味を持ち、知識をたくさん増やすことが大切です。

特任教授 高橋 正人
研究テーマ 高等学校における国語科教育に関する指導方法についての研究

生涯にわたる学びの礎となる「考えること」と「表現すること」の楽しさを国語科の授業にもたらしたいと考えています。

教授 鶴巻 正子
研究テーマ 知的障害や発達障害のある子どもの読み書き支援の実践的研究

特別支援教育のさらなる発展と指導力向上をめざし、ニーズのある子ども達への支援を一緒に考えましょう。

教授 松下 行則
研究テーマ インテグレイティブ・シンキング、「学び合い」、カルタでつくる道徳授業の研究

学級経営や生徒指導を視野に入れた道徳科授業づくりを通して、「すべての子どもの価値観が尊重される」学校を実現しましょう。

准教授 小松 信哉
研究テーマ 数学的に考える資質・能力を育成するための算数科教育についての実践的研究

附属小教諭、教頭、義務教育課指導主事、算数学力調査官の経験から、教員の授業力向上について考えています。

特任教授 大関 彰久
研究テーマ 社会の変化に対応した特別支援教育のあり方

これまでの経験を基に、共生社会の形成に向けた特別支援教育の更なる充実と発信に力を注ぎたいと思います。

特任教授 齋藤 幸男
研究テーマ 学校経営に関する実践的研究

今学校改善が求められています。どの子も思う存分学べる学校・学級づくりを学校現場とともに探究します。

特任教授 村上 正義
研究テーマ 小学校理科教育の指導の在り方と教材開発

理科の学びを通して、子どもの学習意欲やわかり方に沿った問題解決の在り方について考えていきましょう。

教授 谷 雅泰
研究テーマ 明治期地方教育行政史／デンマークの教育

公教育とはどうあるべきか、歴史や外国の事例から考えています。実践の基盤になる教育観を鍛えましょう。

特任教授 野崎 修司
研究テーマ 小学校理科における指導法の研究及び教材開発

理科教育を窓口、主体的な学びについて実践的に研究を推進することで、教育についての深い理解を目指しましょう。

教授 宗形 潤子
研究テーマ 子どもの主体性、学びに関する研究／生活科における砂遊びについての研究

現場の先生方と子どもの学びや授業について一緒に悩み、考え、よりよいものを目指しています。仲間となって一緒に学びましょう。

特任教授 片寄 一
研究テーマ 特別支援教育を推進するための学校間連携についての実践的研究

子ども一人一人の教育的ニーズに対応した指導や支援の方法について一緒に考えていきましょう。

特任教授 内藤 良行
研究テーマ 図画工作科で育みたい学力と授業展開及び評価

「表現」することの楽しさと人間形成上の意義を子供の姿から実証し、学びがいのある造形表現授業の在り方を追求していきます。

准教授 坂本 篤史
研究テーマ 教師の学びを促す授業研究のあり方

授業実践の分析と教師の学びについて研究しています。授業の事実から共に学んでいきましょう。

特任教授 嶋 英治
研究テーマ 音楽科教育における「知覚・感受」を基にした指導法の研究

言葉が感性を高め、高まった感性が実践に豊かさをもたらし、言葉が成長します。共に「理論と実践の往還」の喜びを！

特任教授 佐藤 和彦
研究テーマ 国語科学習指導法の研究／カリキュラム・マネジメントと学校経営

新たな福島教育創成に向けて、「震災体験が切り拓いていく教育」について共に考えていきましょう。

特任教授 浜島 京子
研究テーマ 子どもの家庭生活とその教育

家庭生活に対する意識や態度の変容（高まり）をもたらす家庭科のあり方について、一緒に考えていけたらと思います。

教授 森本 明
研究テーマ 算数・数学の授業とカリキュラムの構成

思考する楽しさを伝えたい。その実現には実践をふまえた教材や授業の研究が必要かつ重要だと考えています。

在学院生の声



ミドル・リーダー養成コース 2年
木村 真 (北塩原村立第一中学校籍 現職派遣院生)

教員として経験を積み積むほど、学校現場における様々なことに何の迷いもなく「当たり前」という感覚をもってしてしまうことがあると思います。教職大学院では、これまでの実践を客観的に振り返り、院の先生方、様々な校種や専門教科の現職院生、学部卒院生と議論を重ねることで、凝り固まった既存の価値観がゆさぶられ、自由で新しい発想をしたり、物事を多様な観点から考えたりする力を高めることができます。社会の急激な変化とともに、教育をめぐる状況も変わり、教員にとってこれからの教育のあり方を探究することが求められている今、日々新たな視点を獲得していく自分を実感できることは、教職大学院で学ぶ大きな魅力であると感じています。



教育実践高度化コース 2年
佐藤 麻優 (都留文科大卒 学部卒院生)

昨年度、教職大学院で過ごした1年間は濃い学びのある有意義な時間でした。教職大学院の魅力のひとつである連携協力校での実習では、参観だけでなく実践授業もさせていただき、参観するだけでは分からなかった教師の発問や指名の難しさ、授業の主役は子どもであって子どもの実態に合った教材づくりの大切さなど、多くの学びがありました。大学3年生で行う1か月の教育実習だけでは学んだり感じたりすることのできないことを現場に出る前に経験できてとても良かったと感じています。今年度も教職大学院で学ぶという貴重な時間を大切に、様々な人と関わりながら自分の視野や価値観を広げ、学び続けていきたいと思っています。



特別支援教育高度化コース 2年
安田 初美 (福島大学卒 学部卒院生)

昨年度、教職大学院での一年間は、とても深く学ぶことができた、貴重な時間でした。教職大学院の魅力は二つあります。一つは、学校現場における実習での学びを重視していることです。学校の実習で、実際に子どもとかわつたり、授業実践したりしたときに抱いた疑問や興味をもとに研究を深めていくことができます。また、実習を続けていくことによって、新たな気付きが増えたり、学びが深化したりします。二つめは、学校種様々な現職の先生方とも一緒に学ぶことができることです。大学の講義だけではなく、実習も一緒に行うことができるため、自分の気づきや学びを深めたり、現職の先生と話すことで多くの知見を得たりすることができ、よい刺激を受けています。

福島大学 教職大学院 Q & A

Q1

今までの大学院修士課程との違いは何ですか？

大きな違いは、学校現場を通して高度な実践力を身につけることを目指していることです。

Q2

修士論文は書くのですか？

修士論文の提出は求めません。代わりに、日頃の実践を理論的にみつめて省察した成果をまとめた実践報告書を作成します。

Q3

学校における実習はどこでやることになるのですか？

大学近郊の連携協力校(附属学校を含む)で実習を行います。

Q4

プロジェクト研究は、小・中・高・特別支援等の校種や教科などは、自分の希望するもので取り組めるのでしょうか？

はい。自身が希望する校種、教科での実施が可能です。実施テーマについては、実習校とのすりあわせが必要となります。

Q5

教職大学院の施設や設備等、学習環境はどのようになっていますか？

大学ではPCタブレット、プロジェクター等のICT環境が整備された共同スペースがあり、専用の机が貸与されます。もちろん学内の図書館等も利用可能です。

Q6

教職大学院に入学する前や在学中に教員採用試験に合格した場合、採用名簿登録期間を延長してもらえますか？

福島県教育委員会では申請により、在学期間(2年間)について採用名簿搭載期間の延長が可能です。手続き等は教育委員会にお問い合わせください。

取得できる学位・免許

教職修士(専門職)の学位が2年間の課程で取得できます。
以下の専修免許状が取得できます。

幼稚園教諭専修免許状

小学校教諭専修免許状

中学校教諭専修免許状

(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語)

高等学校教諭専修免許状

(国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語
農業、工業、商業、水産、福祉)

特別支援学校教諭専修免許状 ※特別支援教育高度化コースのみ

養護教諭専修免許状

栄養教諭専修免許状

募集概要

※内容は予定であり変更する場合があります

求める学生像(アドミッションポリシー)

地域の教育課題について理解を深め、幅広い視野を備えるとともに、授業力、マネジメント力など高い実践力を身につけ、常に学び続け、教育課程の改善や学校改革をけん引する教育のミドル・リーダーをめざす学生を求めます。

募集人数と選抜方法

詳細は、大学webサイト及び学生募集要項をご覧ください。

募集人数 16名(うち現職教員8名程度)

出願資格 大学を卒業した者(卒業見込みの者)で、教員免許状(小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・養護・栄養の普通免許状一種)を取得(見込みを含む)している方

選抜方法

一般入試

対象：出願資格を有している方

検査項目：小論文、学習履歴レポートに基づく面接(口述試験を含む)、出身大学(学部)の成績証明書

現職教員
特別入試

対象：出願資格を有し、出願時まで3年以上の教職経験及び出願年度内に勤務実績のある方

検査項目：実践記録レポート、面接(口述試験を含む)

学類生
特別入試

対象：出願資格を有し、以下に該当する方

- 福島大学人間発達文化学類を卒業見込みである
- 卒業研究指導教員による推薦を得ている
- 実践研究の課題が明確で卒業後の入学を確約できる

検査項目：学習履歴レポート、成績証明書、面接(口述試験を含む)

学 費

入学金 282,000円

授業料 535,800円(年額)

※福島県教育委員会派遣の方は入学金の半額を免除します。

お問い合わせ



人間発達文化学類 支援室

〒960-1296 福島市金谷川1番地

TEL 024-548-8101 FAX 024-548-3181